

北海道青少年のための200冊

令和元年度 新たに選定された41冊紹介



— 幼児の部 —

わたしの森に

アーサー・ビナード 文 田島 征三 絵

くもん出版 1,400円(税抜)



里山の嫌われもの、ママシの目から見た世界は、まったく違って見えます。春を待つ雪の下の気持ち、熱を感知する「むんむんの目」で捉えた闇の世界、命を繋ぐ神秘的な営み……。詩的な言葉と生命感溢れる絵で、雪国の里山の四季を美しく力強く描いた絵本。

かあさん、だいすき

シャーロット・ゾロトウ 文 シャーロット・ヴォーク 絵

徳間書店 1,700円(税抜)



金色に輝く木の葉が舞う秋の日の夕方、エレンと母さんは手をつなぎ、歩きます。「大すきだよ。」の一言を言ってもらいたくて、「ねえかあさん、なにかんがえてる？」と何度も尋ねるエレン。親子の愛情溢れるひとときが温かく描かれ、親子で読んで欲しい絵本。

やきいもやゴンラ

ながい いくこ 作 くすはら 順子 絵

ポプラ社 1,300円(税抜)



毎日、芋のことだけを考えて一心不乱に取り組むゴンラの姿は、まさに職人。お客さんを待たせてしまうマイペースな店主だけれど、みんなに愛されています。人はそれぞれ違うということや、好きなことにひたむきに向き合い夢を追う素晴らしさが伝わる絵本。

とんがりぼうしのオシップ 赤い糸のぼうけん

アンネマリー・ファン・ハーリングエン 作

B L出版 1,400円(税抜)



オシップは、自分の背丈よりも大きい真っ赤なトンガリ帽子を被っている小人の子。赤い糸を見つけたオシップがずんずんと辿り、冒険が始まります。ボタンなどの小物も、小人の世界じゃ全部が大きい！絵のあちこちに、いろんなものを発見できる楽しい絵本。

－ 小学生 1 年生の部 －

あめだま

ペク・ヒナ 作

ブロンズ新社 1,500 円(税抜)



ひとりぼっちで遊ぶドンドンが文房具屋で見つけたのは、6つのあめだま。部屋で一つなめると、ソファが「リモコンが挟まって痛い!」。ドンドンに口うるさいパパからは「すきやすきやすきや…」。あめだまを通して周囲の愛に気づく少年の心温まる成長の物語。

うちゅうはきみのすぐそばに

いわや けいすけ 文 みねお みつ 絵

福音館書店 1,400 円(税抜)



宇宙に行くためには、莫大な費用や設備が必要なためとても遠い場所のようだが、直線距離では札幌から旭川よりも近い。地面から20m、100m…と順を追って宇宙までを描いており、宇宙を身近に感じられる絵本。作者は風船を使った宇宙撮影などを行う。

バッタロボットのぼうけん

まつおか たつひで 作

ポプラ社 1,500 円(税抜)



不思議なバッタロボットに乗って、ボルネオ島からオーストラリア、ニュージーランドまで、世界の大自然を冒険します。大自然と生きものたちをたくさんイラストで紹介しており、知識欲を沸き立たせる絵本。

たったひとつの ドングリが —すべてのいのちをつなぐ—

ローラ・M・シェーファー アダム・シェーファー 文

フラン・プレストン＝ガノン 絵

評論社 1,400 円(税抜)



子どもたちに身近なドングリから木が育ち、その木に鳥が巣を作り、花の種が落ち、実がなり、動物たちがやってくる…。ドングリこそがすべての命を繋ぐもとになること、命が巡り豊かな森がつくられていることを、美しいイラストと簡潔な言葉で描いた絵本。



－ 小学生2年生の部 －

きのうをみつきたい！

アリソン・ジェイ 作・絵

徳間書店 1,800円(税抜)



昨日は楽しかったな、今までで一番楽しかった昨日に戻りたい!光より速く動く?タイムマシン?どうやったら戻れるのかな?相談を受けたおじいちゃんは、楽しかった日々を語り、みんな素敵な思い出だと語り…。未来への希望をあたたかく描いた絵本。

とおくまで

曹文軒 文 ポーデ・ポールセン 絵

樹立社 1,500円(税抜)



蓮の葉に跳んできたカエルが一番高く美しい葉の上に行き、じっとしています。一人前のカエルとして、満足しないで遠くまで見渡すことが大事なんだ。カエルが大事にしていた思いに共感していく動物たちが見ることができた景色は…。色彩あふれる美しい絵本。

村じゅう みんなで

ヒラリー・ロダム・クリントン 文 マーラ・フレイジー 絵

徳間書店 1,700円(税抜)



「広々とした丘に遊び場を作りたい」一人の子どもの「あったらいいな」で動き出す村中の大人たち。一人一人ができることを見つけ、信じ合うことで、よりよい社会を築くことができることを力強く表現しています。未来への希望に満ちた絵本。

－ 小学生3年生の部 －

ナージャの5つのがっこう

キリーロバ・ナージャ ぶん 市原 淳 え

大日本図書 1,400円(税抜)

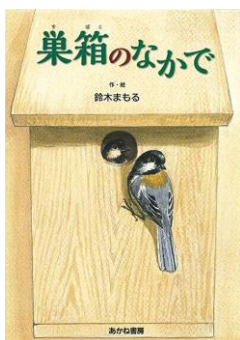


ナージャが本当に体験したロシア・イギリス・フランス・アメリカ・日本の5つの国の5つの学校。教室が違うと面白いことがいっぱい。「子どもたちが何をどう学ぶのか」が教室の様子から見えてくる。自分の国の学校との違いが分かり、知識の広がる本。

巣箱のなかで

鈴木まもる 作・絵

あかね書房 1,300円(税抜)



「シジュウカラ」は巣の中でどんな生活をしているのだろう。「ぼく」は後ろ側に板をつけない巣箱を作り、家の窓の外側に直接はりつける。親鳥が巣箱の中で巣を作り、卵からかえったヒナたちが巣立つまでの20日間を巣の後ろ側から描いた絵本。

－ 小学生4年生の部 －



きくち駄菓子屋

かさいまり 文 しのとうこ 絵

アリス館 1,200円(税抜)

引っ越してきて、なかなか友達ができない「ぼく」。最初にできた友達は、きくち駄菓子屋の無口なじいちゃん。「金のかわりに涙をおいていけ」うれしい時も悲しい時もずっとじいちゃんがいてくれた。主人公の4年生から6年生までの成長を描いた話。

みずとはなんじゃ？

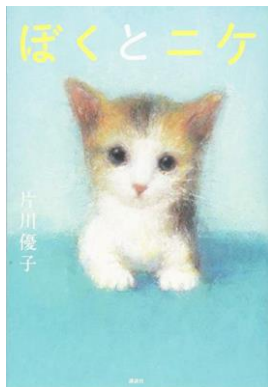
かこさとし 作 鈴木まもる 絵

小峰書店 1,500円(税抜)

毎日、何気なく使っている水。1. 忍者か役者のように姿を変える性質、2. 料理人や医者のような働きをする性質、3. 布団のような役目をする性質と水の働きについて分かりやすく描いた本。作者の「水を通しての共生の大切さ」という思いも伝わってくる。



－ 小学生5年生の部 －



ぼくとニケ

片川 優子

講談社 1,400円(税抜)

5年生になって突然登校拒否になった幼馴染の仁菜。ある日、薄汚れた子猫を拾い、飼ってあげて欲しいと玄太の前に現れた。しかし、病気で生かすか安楽死させるかの選択を迫られる。命について真正面から向かい合う少年たちの物語。



赤はな先生に会いたい！

副島 賢和

金の星社 1,400円(税抜)

院内学級の赤はな先生をしている著書が病気の子どもたちとの出会いを通して「生きていく」ことについて考えたことを分かりやすく語りかけてくれる。視野が広がり、自分や友達のことを考えるきっかけになる1冊。



流星と稲妻

落合 由佳

講談社 1,400円(税抜)

「根性なし」と言われる善太と「ビビリ」の宝。どちらも剣道をやっている6年生だが、授業の模範試合で宝が鮮やかに勝ってしまう。そこから交わるはずのない2人のつながりが生まれ、互いをライバルとして意識していく少年たちの清々しい1年。

— 小学生6年生の部 —

みんなちがって、それでいい

パラ陸上が、私に教えてくれたこと

宮崎 恵理 著 重本 沙絵 監修

ポプラ社 1,300円(税抜)

パラ陸上の重本選手は、生まれつき右腕の肘から先がない。それでも小学校～大学までハンドボールの選手として活躍してきた。大学生から本格的にパラ陸上に取り組むようになり、「障がいのある自分」と向かい合っていくようになる。



メロンに付いていた手紙

本田 有明 文 宮尾 和孝 絵

河出書房新社 1,300円(税抜)

誕生日プレゼントの一つとしてお母さんが買ってきた夕張メロン。その箱の中に生産者の息子がこっそり入れた手紙が入っていた。東京と夕張の遠く離れた2人の少年の交流が始まる。故郷の大切さに気がつかせてくれる、夕張が丸ごとつまった1冊。

— 中学生の部 —

ノベライズ パパはわるものチャンピオン

板橋雅弘 著

岩崎書店 1,300円(税抜)

9歳のショータのパパは、何の仕事をしているのか教えてくれない。そこでパパのクルマに潜り込んでついて行くと、パパはわるものレスラーだとわかってしまった。知られなくなかったパパとショックを受ける息子。2冊の絵本から生まれた映画のノベライズ。





満月の娘たち

安東みきえ

講談社 1,300円(税抜)

どこにでもいる標準的見た目の中学生の私と、オカルトマニアで女子力の高い美月ちゃんは保育園からの幼なじみでママ同士も友だちだ。幽霊屋敷探検を発端におこる様々な出来事を通じ、母と娘たちの葛藤と成長とがリアルに描かれた作品。



ガラスの梨 ちいちゃんの戦争

越水 利江子 牧野 千穂 絵

ポプラ社 1,500円(税抜)

戦争の影はあるものの、昭和16年の大阪で小学三年生の笑生子は家族と幸せに暮らしていた。12月、日本はアメリカ・イギリスと戦闘状態に入り、人々は次第に戦争に巻き込まれていく。どんな苦しい毎日でも生きていこうとする人間の姿を描く。

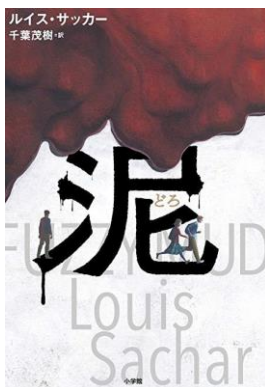


レモンの図書室

ジョー・コットリル 作

小学館 1,500円(税抜)

ママが死んでからパパと二人暮らしのカリプソは、パパから「他人を必要としない」強い心を持ってと言われ、学校ではいつもひとりで本を読み、友だちになることを避けていた。だが転入生のメイによりカリプソの毎日は変わっていき、パパとの関係も変わっていく。



泥

ルイス・サッカー

小学館 1,400円(税抜)

タマヤたちの小学校は、立ち入り禁止の森に囲まれていた。ある日、森の中で泥に触れたタマヤの手に水ぶくれができ、どんどん広がっていった…。問題を把握し議論している者たちがいる一方、何も知らされずに被害を受けるタマヤたちはどうになってしまうのか。





ひかり舞う

中川なをみ 著 スカイエマ 絵
ポプラ社 1,500円(税抜)

明智家の衣装係だった父は討ち死にし、幼い妹は亡くなり、戦場で首洗いをする母とも別れ、7歳にして独り立ちの道を選んだ平史郎。針仕事を自分の仕事と選び生きるうち、歴史に名を連ねる人々と関わっていく。本能寺の変から家康の時代を舞台に描いた物語。



かならずお返事書くからね

ケイトリン・アリフィレンカ マーティン・ギャンダ
PHP研究所 1,600円(税抜)

アメリカのごく普通の少女、ケイトリンは、学校の課題としてジンバブエの少年、マーティンと文通することになった。境遇の違う2人は互いの国のことを知り、理解しあっていくが、マーティンからの連絡が途絶えてしまう。心通わせ親友になった2人の実話。



ヴァンダーカンマー ここは魅惑の博物館

榎崎 茜
理論社 1,400円(税抜)

一日職場体験で希望と違う体験先に行くことになった中学生男女5人は、くじ引きで魚類、鳥類などに分かれて各部の仕事を手伝うことになる。博物館に関わる個性的な大人を観察したり、思わぬ体験をすることで、知らない自分を発見したり、友だちの新たな一面を知っていく。

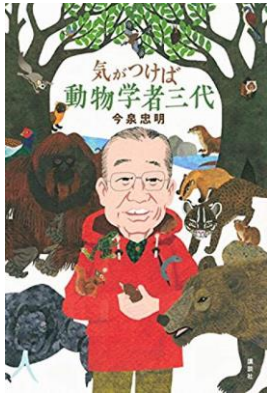


ぼくがスカートをはく日

エイミー・ポロンスキー 著
学研プラス 1,500円(税抜)

毎日鏡を見ては、自分はドレスを着ているのだと想像するグレイソン。学校で開催される演劇のオーディションで女神の役を勝ち取るが、周囲の人々は認めてくれる者と反発する者にわかれていく。自分らしく生きる難しさと一歩を踏み出す少年の姿を描く。





気がつけば動物学者三代

今泉忠明

講談社 1,200円(税抜)

父から息子まで動物学者という今泉忠明さん。自らの生い立ち、父に誘われるがまま動物の生態調査にのめり込んでいった青春時代、ニホンカワウソやイリオモテヤマネコと接近・遭遇するための奮闘など、動物学者として歩んできた経緯を余すことなく語る。

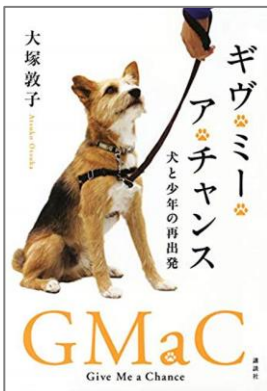


はるかな旅の向こうに

エリザベス・レアード 作

評論社 1,600円(税抜)

シリアのボスラに住む少年オマルは、将来大物ビジネスマンになるのが夢だった。ところが反政府運動が広がり、田舎へ、さらに隣国ヨルダンへと逃げていくことになる。家族を支え、難民キャンプでの生活を生きるオマルを中心に、シリアの家族を描いた物語。



ギブ・ミー・ア・チャンス 犬と少年の再出発

大塚敦子

講談社 1,300円(税抜)

2014年7月、GMaC（ギヴ・ミー・ア・チャンス＝ぼくにチャンス）と呼ばれるプログラムが、千葉県にある八街少年院でスタートした。動物愛護センターなどに保護された「保護犬」の訓練をとおして、少年たちは、少しずつ変わっていく。

－ 高校生・勤労青少年の部 －



わかりやすさの罠 池上流「知る力」の鍛え方

池上彰

集英社 800円(税抜)

本、新聞、雑誌、インターネット、テレビ等に溢れている安易な「わかりやすさ」について、ニュースの世界における「わかりやすさ」の開拓者が明快に解説。ホンモノの情報や知識を得るための力(情報処理、情報検索)の必要性和鍛え方で池上解説の真骨頂を披露。



海わたる聲 悲劇の樺太引揚げ船「泰東丸」命奪われた一七〇八名の叫び

中尾則幸

柏艫舎 1,300円(税抜)

昭和20年8月22日、北海道の増毛沖と鬼鹿沖で樺太からの引揚げ船3隻が国籍不明潜水艦の魚雷と艦砲射撃により沈没。1700人の引揚げ者が犠牲となった悲劇はいまも多くの謎に包まれている。生存者や遺族の証言と当時の取材資料をもとに描くドキュメントノベル。



本と鍵の季節

米澤穂信

集英社 1,400円(税抜)

毎日開店休業同然の高校図書館。図書委員の詩門と次郎は暇を持て余して図書館に持ち込まれる謎解きに挑む。それは真相が明らかになっても、彼ら自身が抱える苦悩や秘密と向き合うことにもなった。理想と現実の割り切れない関係を知るほろ苦くも爽やかな物語。



ののほな通信

三浦しをん

角川書店 1,600円(税抜)

女子校で出会ったふたりは学校だけでは喋り足りず、帰宅してからも手紙を出すかけがえのない友人。やがて運命の恋人へ。そして決別。40代になって再開されたメールでの会話。自分とは異なる価値観、存在を理解し、新しい自分を知る時の流れを書簡で描く物語。



極夜行

角幡唯介

文藝春秋 1,750円(税抜)

真の闇と闇開きの最初の太陽を体験すべく北極圏グリーンランドへ。文明の利器であるGPSを持たず地図とコンパスを頼りに、一頭の犬と重たいそりを引いての旅は想定外の連続の日々。「自分で経験して発見したものが一番確かな知」の言葉が圧倒的に迫る冒険記。



フタバズキリュウ もうひとつの物語

佐藤たまき

ブックマン社 1,700円(税抜)

恐竜の大好きな少女が恐竜博士になると思い定め、古生物学者への道をまっしぐらに進む。フタバズキリュウに出会いその研究に取り組み、新属新種の恐竜として世界に発表することになる。研究のプロセス、研究者になるプロセスも興味深い研究者の奮闘の物語。



タイコたたきの夢

ライナー・チムニク 作・絵

徳間書店 1,400円(税抜)

「ゆこう どこかにはあるはずだ もっとよいくに よいくらし！」ある日、ひとりの男がタイコをたたいて叫びだす。取り締まりにもかかわらず次々とタイコたたきが増えて…。憧れ、希望、欲望、不満、煽動、同調、無知、陶醉、衝動等々が密やかに流れる寓話。



がいなもん 松浦武四郎一代

河治和香

小学館 1,700円(税抜)

明治政府に「北海道」という地名を提案したとされる松浦武四郎。伊勢の庄屋の四男として生まれ、奇人変人と称された男は28歳の時に初めて蝦夷地に渡る。アイヌの人々との細やかな交流、蝦夷地を取り巻く複雑な情勢、江戸から明治への世情を背景に描く歴史伝記小説。



モンテレッジオ 小さな村の旅する本屋の物語

内田洋子

方丈社 1,800円(税抜)

ヴェネツィアの古書店主の「代々、本の行商人でした」の一言から、行商人を追う旅は始まった。トスカーナの山深い村から本を担いで旅に出た人々。なぜ行商が本なのか。イタリア在住の著者が追った人々の暮らしには壮大な本と本屋の歴史があった。資料図も美しい。